特集　星空の暗さは中途半端？！実践活動のあゆみ

瀧本麻須美（坂下星見の会）

1. はじめに

“その始まりは、ある一本の電話から始まった・・・”まだ天文台も無かった十数年前、今の活動に繋がる切っ掛けの電話だったかもしれない・・・そんなフレーズから始めさせてもらった発表（兼、基調講演）。

当時、近くの研修施設で子どもたちに天文教室なるものを手掛けている真っただ中、国立天文台の（当時、広報室長をされていた）渡部潤一先生からのいきなりな電話をいただきまして「あなたの活動している所に天文台は、どうですか？」

図１　下里水路観測所の望遠鏡

ご存知の方、多いと思いますが、渡部先生の活動スタイルは、専門家や研究者のみならず、アマチュアの天文愛好会のような団体とも気軽にコンタクトを取ってくれるという、私たちからはとてもありがたい存在。しかし、よくよく話を聞かせていただきますと、もうお役目を終わる大型の天体望遠鏡があるので、私たちの拠点へどうかという話。それはともかく、サイズをお聞きしてビックリ！…予算諸々で、とてもこちらで手に負える代物でないことが判明（現在、香川県にある天体望遠鏡博物館にて展示）・・・当時まだ現役で動いていたその望遠鏡のある和歌山県の下里水路観測所（図 1、2）へ見学をさせて下さい、という名目で丁重にお断りをしに行かせていただいたことを思い出します。

図２　観測所のウエルカムボード

でもその後、当市（亀山市）の施設として天文台建設の話が具体的になり、渡部先生の話が追い風になったのではないかと思っています。

2. 試行錯誤

現在の天文台建設＆運営に至るまでは、勿論それだけではありません。予算を組んで実現するまでには議会に承認してもらうなどいくつかの関門があり、当時の担当室である教育委員会（生涯学習室）の腕にも関わってきます。そのころ当会（坂下星見の会）は、亀山市と関町が合併する前（2002 年）から活動をしており、手前味噌ですが、地道に天文活動を続けている実績ありという事で、私たちの考えも進行に関わってはどうかとの声をいただきました。

活動を始めた当初は、ただの星好き、宇宙好きが集まって、自前の望遠鏡で親子や一般の人たちに星空の面白さや宇宙に触れる不思議さなど、楽しく案内をしていました。しかし､その活動の話だけではインパクトが弱い。

建設するにあたって、ただ数年間続けているというだけではない何か！が欲しい・・・そのような意見を受け、会から何らかのアクションを…ということで、提案したのが**「地域まるごと博物館構想」**（図 3）内容はネーミングの通り、地域（坂下地区）一帯を博物館と見立てるというものです。

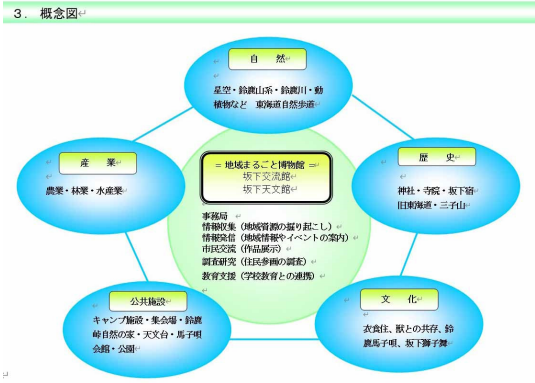

図 3「地域まるごと博物館構想」概念図

・自然（森林、川、動植物、星空）
・歴史（東海道五十三次の坂下宿）
・文化（正調鈴鹿馬子唄、坂下獅子舞）
・産業（お茶、和菓子）
・公共施設（鈴鹿峠自然の家、**天文台「童夢」**）
・地域住民は、身近な情報を元に学芸員
といった田舎ならではの戦略です。

ここ坂下地区は、市内では比較的夜空が暗く、月明かりのない空の状態がいい時は、天の川が見える・・・とはいえ、星空の利点を加えたとしても弱い。そこで考案したのがこの博物館構想でありました。

3. 展　開

これまでの活動の中でも、親子での参加が多いことから教育的にも関わらせていただく事が多くなり、天文教育という言葉を意識するようになりました。

既に人権教育や、環境教育といった学習の機会に触れていたこともあり天文が教育に関われることはチャンスと捉え、進める内容にも盛り込みました。

その天文台も、子どもたちが夢を育めるようにと願って名付けられた「童夢」。

前手記（157 号）と重複しますが、設置された鏡筒は口径 400 ㎜のカセグレン反射望遠鏡　（サブスコープ 115 ㎜屈折望遠鏡）観測用というよりは、コミュニティ天文台としての位置づけで建てられ、他の天文台と比べるとそれほど大きな機材ではないかも知れませんが、拠点として運営するには十分な規模であると思われます（図 4、5）。

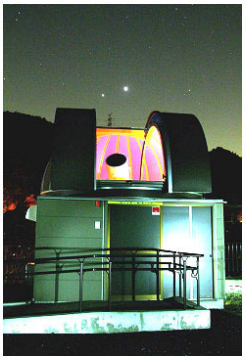

図 4　童夢外観

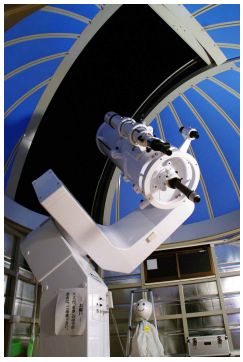

図 5　童夢内観

4. 略　歴

2010 年 4 月～天文台「童夢」の設置＆運営を開始し､2020 年度は 10 年目を迎えます。天文台としては、そのような節目でもあり、当会は、亀山市独自の「協働事業提案制度」に手を挙げ､10 周年記念事業として何等かの進行を考えていきたいと思っています。

そして共に歩んできた当会(坂下星見の会)も 2002 年 4 月に発足、再来年度は 20 年目を迎えます。

天文台という拠点ができたこともあり、更に活動に環境教育的な内容も入れ、環境省が発信する星空調査にも取り組み、天文に直に関わってくる光害（ひかりがい）についての解説も取り入れるなどし、地味ではありますが、環境への意識も高めていきました。

そのように取り組む中、2011 年には、環境省が行う「星空の街・あおぞらの街」全国大会にて「全国協議会会長賞（天の川賞）をいただきました（図 6）

そして同年、三重県の環境活動賞も受賞いただき、更なる天文台「童夢」の利活用や、幅広い天文への意識向上へと繋げていきたいと思いました。

図 6「星空の街・あおぞらの街」
全国協議会会長賞（天の川賞）受賞記念

5. 課題として

まだ地元の星空しか知らない時、近隣に PR をするだけで精一杯な自分たちは、とにかく星が見える拠点という事を宣伝にと思い作ってみた画像（図 7）…ですが、近年遠方（特に星空のきれいな所）へ出向く機会が幾度とあり、地元との見比べを何度とすることに…

自分たちが拠点としている鈴鹿山麓の田舎、それなりに暗い星空を売りにできると思い込んでいましたが、本当に星空がきれいに見える場所での天の川、その濃さの違いに圧倒的な差があることを目の当たりにしました。

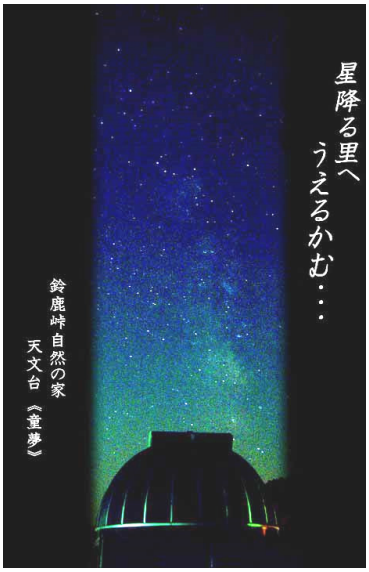

図 7　天文台「童夢」PR 用画像

その気づきは、少々テンション低くならざるを得ないですが、それを知った上で、その他の内容で魅力を感じてもらえるように持っていくというのがこれからの課題でしょう。

6. 活動内容の工夫

天文、星空に興味を持ってもらえるようにと、空の暗さだけの PR とはいかないにしても、一般のお客さん達にとっては、普段から星を売りにしての内容だけでは弱いと感じていることもあり、これまでに手掛けてきたコラボ企画は、これからも続けていきたいと思っています。今回の天教のテーマに「もしも雨・曇りだったときにどうするか？」

晴れれば問題ないのですが、毎回そうとは限らない。その場合どうするか？との内容も盛り込んでの発表となりました。

その中で、全天候型プログラムというのを初めに企画しておく事が必要となりますが、

例として、当日会場に出しておいた「モバイルプラネタリウム」(図 9 参照:左後方にあり)このような内容で対応や、室内で出来る星空教室、工作教室、コンサートなど、先に挙げておくと、慌てなくて済むといった傾向になります。予備日が設けられないのであれば、打開策として、そのように考えたほうがスムーズに持っていけます。

図 9　天教会場の様子

図 10　地元参加者としての発表（瀧本）

それから何度もイベントをしている中で、親しみやすさや面白さなどもプラス。発表時に、自分もスタッフ側のメンバー数名と共にちょっとしたコスチュームを着用いたしました（図 10)。参加者の皆さんに楽しんでいただくのは勿論ですが、提供側もイベントを楽しむ事に何の遠慮もいらないと思うのです…そのような事ですみません、もう数回このような出で立ちで皆さんをお迎えさせていただいています。

話は 2019 年 10 月に戻りますが、予定していた「星まつり」は、台風のため中止。警報が出てしまうほど酷い状況なので仕方ありません。

でも、せっかくなのでどこかでは披露したい！そんな思いもあり、いくつかの内容をこの支部会の合間に組み込ませていただきました。

この日は、天文台も月に一度の開放デーであり、夜には一般のお客さんも訪れます。

実際のところ①天教支部会＋②星まつり内容＋③天文台開放デーと 3 つの要素を盛り込んだことになります。うまく進められるか？少々不安もありましたが、これまでの経験から幾度となく参加してもらっているメンバーそれぞれの理解度や技術、それまでの活動の進み具合などから想定して、これなら行けるのでは？あとは周囲の人たちに可否を伺って実行させていただきました。

星空案内などは、天教出席の方たちにも手掛けていただき更に盛り上がったと思います。

天文台周辺には、に大勢の参加者が流れ込みましたので、少々統一性を取るには難しかったかもしれませんが、嬉しいことにお客さんからは、いろんな話が聞けてとても楽しかったとの声をもらっています。

天教支部会の皆さんには、様子を見てもらえる良い機会になったのではと思います。

7.「星まつり」と共に

この中部支部会に披露させていただいた内容は

・リコーダークラブ演奏（図 11）
・ペットキャンドルの夕べ（図 12）
・プロジェクションマッピング（図 13）

天文台「童夢」を含む、付近での星空観察会は、コラボ企画を入れ込んだこともありか盛況のうちに終えることができました。

また当日は、当会メンバーだけでなく遠方から駆けつけてくれた星仲間の皆さんたちの協力により準備や片づけに至るまで時間的にも大変助かったと記憶、感謝の念です。

図 11　リコーダークラブ演奏

図 12　ペットキャンドルの夕べ

図 13　プロジェクションマッピング

10 月に行う予定だった「星まつり」…当日は、台風のため中止とリコーダークラブへ連絡をしたときに、ご指導の先生から、ここでの演奏は初めての子もいて、とても楽しみにしていたのだけど、中止と聞いて残念で落ち込んでいるんです…と伺い、なんとかならないか？とずっと思っていたこともあり、その機会ができ、本当に良かったと思ったのでした。それに、毎年コンサート部門を楽しみにしているお客さんの声を聞いている事もあり、余計にそのように思えるのでありました（このホールの響きはリコーダーのような楽器は、最高なんです♪）

天文とはいえ、そこに関わってくる状況は様々で、この場を活用してもらえるという点では、地域を自慢に思える要因で、これからも何かに繋げていきたいと思っています。

8．その後の気付き

第一日目に終えた発表ではありましたが、内容にいろんな事を盛り込んだこともあり、時間的にギリギリになった焦りから、肝心な雨 or 曇りプログラムの工夫という内容をしっかり位置付けて話をしてなかった事を思い出し、二日目に付けたし事項として話をさせていただきました。

その時に受けた 2 つの質問ですが、

Ｑ１：この活動を始めたきっかけは？

Ａ：たまたま親子たちがいるイベントで三日月を望遠鏡で見てもらった時のリアクションが思った以上に良くて自信がつき、周りを巻き込んでいったというのが始まり。

Ｑ２：これだけ長く続いているという活動持続の秘訣は？

Ａ：ざっくりですが、代表は活動（活躍）の場を提供、参加メンバーたちはその時々に応じて実力を発揮、それなりに充実してもらっているのでは？と簡単にまとめると、そのような返事になりましたが、今までにそのよう

な事を聞かれたことがなく、答えを用意してなかったというのが実際のところでした。はて？なぜ続いている？・・・

自分は代表という名の雑用係ですと言って笑ってますが、実際自分だけではできないことばかりで、毎回皆さんに声を掛けている状況です。近年は、ある程度、担当をメンバーに任せることが多く、これまでのやり取りの中で、このぐらいは大丈夫と信頼をおいて任せる。その部署では、十分に実力を発揮してもらっています。

また、こんな講座をしてみてはどうでしょう？と提案してもらえることもあり、これまでの固定観念から、自分だけでは実現できなかった事も行動に移せています。

今回の天教中部支部会のご縁も、そんな繋がりで、ここでの開催はいかがですか？と話をいただいたのが切っ掛けだったと思います。

余談ですが、メンバーの中には、芸達者な面々も多く、少人数ですが、施設慰問（音楽＋天文）の出前に行ったりしています。年代的にご高齢な方たちが多く、選曲は懐メロに得意なメンバーさんにお任せ、これも天文普及の１スタイルだと思っています（図 14）

図 14　慰問演奏に星空解説（クリスマス）

当会がまだ結成した当初は、会員数も 10 名に満たないぐらいの小規模。でも今の名簿欄は、おかげさまで 50 名を超えています。と言っても別の会と掛け持ちの人が多く、イベント時に重なることもしばしば・・・毎回全員が来られる訳ではありませんが、日程によっては、都合がよい人が来てくれる、または興味を持った人が来てくれるといったお気楽な雰囲気になっています。

特に決めた訳ではありませんが、いうなれば「この指とまれ方式」なんですよね。

時に、自己実現の場になれば…といった気の利いた言葉もありますが、自己満足でもいいんじゃない？ぐらいの乗りでいいと思うんです。提供側も楽しくいかないと続きません。

メンバーの中には、ここへ来ると落ち着くんですよね～と言ってもらえたり…来てもらいやすい環境がどこかにあるのかも知れません。そのような状況ですが、当会には、役員 6 名、ちゃんと規約もあるんですよ、最低限運営に必要なので。。。

話は、Ｑ２の質問時へ戻りますが、やり取りをさせてもらう中で、ここの会はカリスマがいないですよね、それがいいのでは？となりました。カリスマに憧れて入るだけでは長続きしない傾向にあるというらしいのです。確かにそうかも知れません。

9. おわりに

今回の中部支部会を通して、いろんな見方や、改めてこれまでの認識ができたと思います。関わられた皆様、またご協力いただいた皆様ありがとうございました。

瀧本 麻須美